




山行報告書

2024.6.29～7.16まで、北海道の100名山の全山登頂を目指して、キャンピングカー泊で山旅を行った。後半は故障者も出て全山登頂とはならなかったが、最難関と言われる幌尻岳や離島の利尻富士に登頂出来て大きな収穫を得ることが出来た。

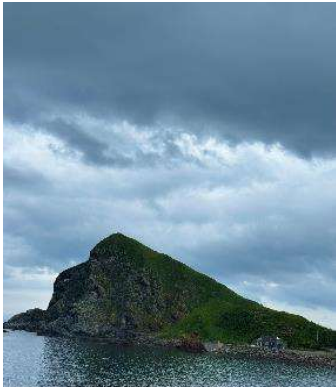
日時	2024年7月2日(火)～3(水)		天候	曇り/晴れ
山名	幌尻岳 2052m			
CL	HIRO	参加者	tomo、ひとみ、会員外1名	
(コース)	2日(火) とよぬか山荘4:00 〽️シャトルバス停留所5:00・・・電力取水施設7:00・・・渡渉あり 幌尻山荘9:10・・・幌尻岳13:20・・・幌尻山荘16:15(泊) 3日(水)幌尻山荘5:30・・・渡渉・・・電力取水施設8:30・・・停留所10:50 〽️とよぬか山荘 歩行距離28.4km 累積標高差 2010m 歩行時間16時間40分			
(コメント)	<幌尻岳> 100名山の中でも最難関の一つとされていて、一度の挑戦で登れたことは幸運だった。往路のバスで、直ぐ横を走り去る小熊を見かける。また、幌尻山荘から山頂までの登山道にも糞が点在していてヒグマの生息地であることを実感。山頂付近の高山植物のお花畑が素晴らしく、それまでの苦労が一気に報われた。下山時には霧も晴れて山頂並びに奥深い日高山脈を見渡すことができた。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center; background-color: yellow; padding: 5px;">幌尻岳 北カール</p>				
日時	2024年7月5日(金)		天候	晴れ
山名	羅臼岳 1661m			
CL	HIRO	参加者	tomo、ひとみ、会員外1名	
(コース)	5日(金) 木下小屋4:00・・・岩尾別登山口4:10・・・羅臼岳キャンプ指定地8:15・・・岩尾別登山口14:20・・・木下小屋14:30 歩行距離13.1km 累積標高差 1468m 歩行時間10時間30分			

(コメント) <羅臼岳>
 前日に快晴の下、知床峠からその全容を確認してからの登山となった。ホテル地の涯の前の登山者用の駐車場で車中泊をしたが、全国的な熱波の影響が道東にも影響して寝苦しかった。登山日も快晴だった。樹林帯を抜けたキャンプ指定地からは青空をバックに羅臼岳の岩峰が広がり、登高意欲をさらに掻き立てた。山頂からは北の海に向かって知床連山が延々と続く様を見ることが出来た。下山後に車で移動していると大きなヒグマが道路に伏せているのに気付いた。停車すると猛然と走ってきて30mぐらいまで迫ってきて立ち上がり、両手を広げて怒りのポーズでにらみつけてきた。車をゆっくりバックさせるとしばらくしてヒグマは去っていった。直後に知床自然保護センターへ報告。

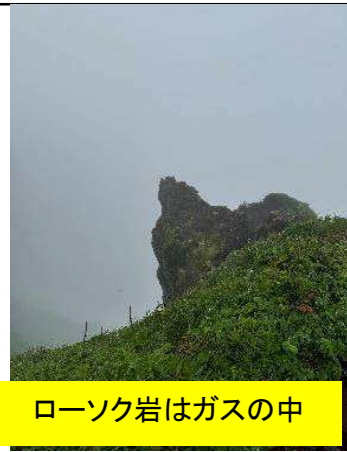


日時	2024年7月8日(月)		天候	曇り/霧雨
山名	利尻岳(利尻富士) 1721m			
CL	HIRO	参加者	tomo、ひとみ	
(コース)	8日(月)利尻島ファミリーキャンプ場3:50・・・長官山7:00・・・利尻岳山小屋7:30・・・利尻山(利尻富士)8:45・・・大山神社9:00・・・利尻岳山小屋10:00・・・北麓野営場13:20・・・利尻島ファミリーキャンプ場13:50 歩行距離16.3km 累積標高差 1735m 歩行時間10時間			

(コメント) <利尻岳>
 前日の昼頃に稚内からフェリーで島に上陸して、標高差200mを歩いてキャンプ場入り。テントは予約不要で広々としたスペースを確保できた。夕食を港近くの居酒屋でと期待して下って行ったが、見当たらない。あきらめてセイコーマートで食料を購入。翌朝、暗いうちか起き出して行動開始。霧雨の中をひたすら登る。足元はぬかるみの連続で靴もスパッツも泥だらけになる。8合目付近に登山道整備の土嚢運びの協力依頼看板あり。1袋7kgと書いてあったが濡れているため10kgぐらいになっていた。一つだけ指定のスペースまで担ぎ上げる。山頂は開けているが展望無し。山頂のお社の後ろは崩壊が進んで絶壁状態に。今後移転することになるだろう。終始、霧が晴れずに遠望が望めなかったのがとても残念だった。次回は礼文島から全容を眺めてみたい。



利尻港にそびえるペシ岬



ローソク岩はガスの中

日時	2024年7月10日(木)		天候	晴れ
山名	十勝岳 2077m			
CL	HIRO	参加者	tomo、ひとみ、会員外1名	
(コース)	10日(水)望岳台登山口4:30・・・十勝岳避難小屋5:40・・・十勝岳7:45・・・避難小屋10:00・・・望岳台登山口11:20 歩行距離10.2km 累積標高差 1127m 歩行時間6時間55分			
(コメント)	<p><十勝岳> 早朝に望岳台登山口についてみると車中泊したと思われる車両が30台ほど駐車していた。トイレは綺麗で24時間使用できるうえに涼しいので、前夜の道の駅よりもこちらが良かったと思った。登山道は広く、樹林帯も無く快適である。途中、火口付近から硫黄の臭いが漂ってきて、ここが活火山であることを実感する。最後の登りの手前で左下に大きな雪渓があったが、サンショウウオがぐねっているような姿に見えて面白かった。山頂付近は強風であったが、風下に降りると風も止んで落ち着いて行動食をとることが出来た。時おり雲が切れて美瑛やトムラウシ方面の山並みも遠望できた。今回の山行で最も楽な登山だった。</p>			



ガスを噴出する火口



日時	2024年7月14日(日)		天候	晴れ
山名	羊蹄山(蝦夷富士)1898m			
CL	HIRO	参加者	ひとみ、会員外1名	
(コース)	14日(日) 京極登山口4:50・・・真狩岳9:00・・・羊蹄山9:10・・・京極登山口13:20 歩行距離9.3km 累積標高差 1499m 歩行時間8時間25分			

<羊蹄山>

北海道遠征の締めくりに蝦夷富士を選んだ。登山口は4つあるが、その中で最も標高差の小さな京極登山道を選択。結果的にはこの日は風向きが西からで、東面に位置する京極登山道は風下になるため、無風で蒸し暑い登山になった。独立峰なので、季節と風向きによって登山口を選択すると良いと思った。登山前のイメージは、富士山のように開けた砂礫の登山道と思いきや、9合目辺りまで深い樹林帯で展望無し、風無しと今回の遠征で唯一暑さとの戦いになった。しかしながら、稜線に出れば心地よい風が吹き渡り、霧の多いこの時期にしては幸運にもお鉢全体を見渡すことができた。京極登山道の利用者は少なかったが、山頂は賑やかで、山頂標識の前の記念撮影は順番待ちであった。リーダーは単独でお鉢を周回して再び合流。単調な下山道はとても長かった。

(コメント)



羊蹄山 遠景



お鉢

感想	<p>今回は昔からの山友のIOさんとアゼリアのメンバーとチームを組んで遠征してきました。目的の一番は100名山で最難関とされる幌尻岳で、出発前はヒグマ、沢の渡渉、山小屋のねずみと心配していましたが、現地に行ってみると予想していたほどの困難は無く、十分に登山を楽しむことが出来ました。計画していた斜里岳、阿寒岳はメンバーの体調を考慮して断念しましたが、数年のうちには再挑戦するつもりです。また、次回はロングルートのテント泊山行もしたいですね。日帰りばかりではもったいない山域です。登山、移動、車中泊の連続に耐えていただいたメンバーに、深く感謝しています。長期遠征で疲れが溜まったり風雨で気持ちが沈んだりしても、お互いが知恵と力を出し合っ</p> <p>て全員がリーダーの自覚で行動することが成功の鍵となりました。今回の旅での走行距離は4100kmでした。車も泥だらけ、虫の死骸だらけになりながらもノートラブルで走ってくれて、愛着が増しました。CL (HUPO)</p>
感想	<p>車とフェリーで6/29～7/16の18日間、北海道遠征に行ってきました。今まで一度も観光でさえ訪れたことがなかったので期待と不安でいっぱいでしたが、北海道の名立たる山々は悠然と迎え入れてくれました。幌尻岳、羅臼岳、利尻山、十勝岳、羊蹄山 5座登頂。特に幌尻岳は20回ほどの渡渉、急登、稜線歩き、岩稜帯がある変化ある素晴らしいお山でした。移動している間は、ほとんど車中泊、テント1泊、バンガロー1泊。心配していた体調も車酔いも大丈夫で、元気に過ごすことができました。そして改めて自身の反省すべきことがわかったいい機会となりました。北海道の雄大な大自然に抱かれて、確かな手応えを感じる事ができ、充実した山行となりました。苦難の末にたどり着けば、そこには絶景が待っている。貴重な体験をさせて頂いたこと、助言ご指導して下さい。リーダーには感謝でいっぱいです。長距離運転お疲れ様でした。そしてご一緒下さったIOさん、tomoさん、有難うございました。楽しかったです！ (hitomi)</p>
感想	<p>6/29敦賀港から苫小牧東港へ、2週間の北海道山行の始まりだ。7/2最初の山行は幌尻岳2052mで、とよぬか荘(廃校小学校)に3時到着。看板に100名山最難関と大きく書いてある。4時のシャトルバスに乗り込んだ。途中の沢で熊が遊んでいるのを発見。ほんといらんだと気を引き締める。50分かけて第2ゲート着。ぬかびら川沿いの林道を進む。北電の取水施設に到着。渡渉用のフェルト靴に履き替え、沢をザワザワと膝上まで入り急流に負けじと渡る。この沢登りも最難関の理由の一つの事だが、結構楽しい。2時間くらいで幌尻山荘に到着。荷物をデポし、熊さんの縄張りに入らせていただく。熊鈴、リーダーの笛、熊スプレーに守られ、アイヌの人達が崇めた、カムイ(神々)の山に向かう。1600mを超えると背の低い這松が迎える。ここを超え、稜線に飛び出すと幌尻岳頂上が見える。小屋を出て5時間あまりで山頂に着いた。手強い山頂だ。思いっきり息吹を頂く。北海道の大地から牧草や小麦の上を渡って吹く風は「匂い」と「色」があり、疲れた体を癒してくれる。あいにくガスで日高山脈の絶景は諦める。下山途中からガスがスーと消え氷河が削った広大な北カールの谷が現れる。何千年も何万年も続く原始の世界を今ここに見る。今、生きている！！知床半島先端の羅臼岳1661m、オホーツク海を右に見ながらどこまでも真っ直ぐの道を稚内までロングドライブ。フェリーで日本百名山1番目の利尻山に登る。今度は日本海を右に見ながら、十勝岳2077mへ。2週間でぐるりと北海道を廻り4座登頂した素晴らしい夏休みでした。リーダーと仲間達、ありがとうございました。(tomo)</p>

費用概算

(交通費/人) <往路>敦賀 船フェリー 船 苫小牧(ベッド料金・車両航送料込み)
<帰路>小樽 船フェリー 船 舞鶴 (ベッド料金・車両航送料込み) 稚内 船フェリー
船 利尻島 往復
福岡から敦賀までの往復(高速含む)+道内の移動(高速含む) 合計4100km
一人当たりの交通費 約11万円
(宿泊費4人で) 利尻ファミリーキャンプ場2,000円 旭川のバンガロー4,000円